

一般社団法人 日本独文学会
JAPANISCHE GESELLSCHAFT FÜR GERMANISTIK E.V.

ニュースレター2025 春号

JGG-INFO-BLATT / FRÜHLING 2025

2025/04/07 現在

まえがき

適疎

日本各地で地方が「消滅」に向かう中、30年間人口増の町が北海道にある。旭川空港と旭岳の間にある東川町だ。人口は約8500人、町民の半数が25年以内に転入してきた移住者らしい。東川町は、2015年に全国初の公立日本語学校を設立、世界ともつながっている。地域と多様な形で関わる「関係人口」を増やすことが、秘訣らしい。過密でも過疎でもなく、適当に「疎」^{ゆとり}がある適疎なまちづくりをめざす。つまり、Klein, aber fein ^{てきそ}だ。

おやじの会

私は、うちの子どもたちが通った学校を通じて、長らく小学校の「おやじの会」や中学校の「おやじ俱楽部」の会員だった。今はOBとして関わっているので、私自身、「関係人口」の一人かもしれない。2023年6月3日、そんな私が日本独立文学会の第40代会長に選出された。いろいろと異例ぞくめだったと思う。当方、学会76年の歴史において首都圏以外から初めて選出された会長だし、その当時、「おやじ俱楽部」で会計という重責を担っていた。

血行の良い学会

私は、この間、三重の意味で「血行の良い学会」を目指してきた。コロナ禍後の学会運営ということもあり、まずはスムーズな引き継ぎを通じて、対面による研究発表会の再開をめざす。次に、ハラスメントに関して、前理事会が出された防止宣言を、単なる宣言にならないようしなければならない。つまり、ハラスメント宣言の実行化に尽力する。そして、学会の「身体機能」が根本的に低下しないために、各支部の活性化がとりわけ重要と思う。

もっと光を！

私は、日本独立文学会の会員であると同時に、西日本支部と北海道支部の会員でもある。「日本独立文学会の枠構造」を自称する私は、会長行脚と称して、複数の支部に向かった。理事会では、毎度、支部報告が気になる。正直に言えば、状況はかなり厳しい。もっとも、新しい試みも報告されるようになった。支部会員以外の方を招いての講演やミニ・セッション、歴史系研究者との合同シンポジウムなどだ。私自身、こうした報告を聞くたびにつぶやく。もっと光を！

日本ドイツ文学会の会長？

どのように支部を活性化したらよいのか。言うは易く行うは難し。そう思い悩む

日々が続く中、気になる小説を読む。鈴木結生氏の芥川賞受賞作『ゲーテはすべてを言った』だ。主人公は、「一昨年から日本ドイツ文学会の会長」を務め、「30分×4夜のテレビ番組」に出たことがあるゲーテ研究者、妙に気になるな、この設定。そう思ったとき、何だか光がさしたような気がした。なにせ鈴木氏はトーマス・マンを愛読する福岡在住の作家だからだ。

魄より始めよ

2025年はトーマス・マン生誕150年目にあたる。私なりに光を呼び込むために、福岡にあるドイツ料理のレストランで鈴木氏に会い、4月26日に九州大学でマンの記念講演会を行うことにした。まずは当方、次に鈴木氏、最後に平野啓一郎氏が話す。平野氏も福岡にゆかりがある芥川賞作家、しかもマン文学の愛読者だ。魄より始めよ、そう私は思った。「一昨年から日本独文学会の会長」を務め、「25分×4夜のテレビ番組」に出たことがあるマン研究者として。

複言語マイスター制度

私は、九州大学文学部の教員としても、新たな挑戦を行う。新しい履修制度として「複言語マイスター制度」（ドイツ語プログラム）を2025年4月から導入する。ドイツ語母語話者や独文学専攻生を除く学部生が対象だ。実は、同僚にはドイツ語にかかわる教員が割と多く、彼らの協力を得たことも収穫だ。この間、境一三氏や太田達也氏には、何度も相談にのってもらった。この場をお借りして、「関係人口」の方々に御礼を申し上げる。

今後とも福岡で

一昨年から始まった私の重責も、そろそろ終わりに近い。縁の下の力持ちである事務局員の方々、建設的な意見を絶えず出してくださった理事会のメンバー、そしていつも身を粉にして私を支えてくださった庶務理事の方々には、心より感謝を申し上げる。皆さん、本当にありがとう。私は会長職で学んだことを活かし、今後とも福岡で「^{てきそ}適疎」をめざして行きたい。

会長 小黒康正

目 次

まえがき

ご案内

2025 年春季研究発表会について / Frühlingstagung 2025	1
2025 年秋季研究発表会のご案内 / Bekanntmachung der Herbsttagung 2025	2
会費納入について	4
一般社団法人日本独文学会会費規程	5
ドイツ語教育部会総会のお知らせ	7
第 51 回語学ゼミナール開催のお知らせ	8
51. Linguisten-Seminar der JGG	11
DAAD からのお知らせ	14
ゲーテ・インスティトゥートからのお知らせ	18
一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金(出版助成)のお知らせ	19

報告

第 22 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果	20
日本独文学会 2024 年秋季研究発表会報告	22
第 50 回語学ゼミナール報告	23
日本独文学会研究叢書新刊一覧	27
2024 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告	28
2023/2024 年度ドイツ語論文ワークショップ開催報告	30
「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」について	32
支部報告	33
ドイツ語教育部会報告	44
ドイツ語学文学振興会より	47
大学院 Germanistik 関係博士論文題目	48
あとがき	49

2025 年春季研究発表会について

最新情報は学会 HP 「日本独文学会ホームページ (<https://www.jgg.jp/>)」 左メニュー「研究発表会」にてお知らせする。

Frühlingstagung 2025

Die aktuellen Informationen finden Sie unter Tagungen im linken Menü auf der JGG-Webseite (<https://www.jgg.jp/>).

2025 年秋季研究発表会のご案内

下記の通り、2025 年秋季研究発表会を開催いたします。

期日：2025 年 10 月 18 日（土）、19 日（日）

会 場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

研究発表をご希望の方は「発表申込書 1（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし、「発表申込書 2（発表概要）」（Word 形式）と共に、日本独文学会ホームページ（<https://www.jgg.jp/>）左メニュー「研究発表申込み」にアクセスし、「研究発表申込フォーム」よりお申込みください。その際、必ず「研究発表申し込み要領（2024 年 1 月 24 日改訂）」をご熟読ください。申し込み審査のガイドラインもそこに記載されています。

申し込み締め切り：2025 年 7 月 1 日（火）

申し込み先：上記発表申し込みフォーム

2025 年 3 月
日本独文学会理事会

Bekanntmachung der Herbstagung 2025

Die Herbstagung der JGG findet statt:

am Sa., 18. und So., 19. Oktober 2025

an der Kwansei-Gakuin-Universität, Nishinomiya Uegahara Campus

1-155 Uegahara-ichibanchō, Nishinomiya, Hyogo 662-8501

Wenn Sie sich als Referent*in bewerben möchten, senden Sie uns bitte das ausgefüllte Antragsformular (Exel-Datei) und Ihr Exposé in Form einer selbst verfassten Word-Datei. Um sich anzumelden laden Sie bitte beides unter Anmeldeformular (研究発表申込フォーム) auf der JGG-Webseite hoch.

Detaillierte Informationen sowie alle notwendigen Upload- und Download-Links finden Sie unter Referatsanträge (研究発表申込み) im linken Menü auf der JGG-Webseite (<https://www.jgg.jp/>). Der deutsche Text folgt dem japanischen.

Anmeldefrist: Di., 1. Juli 2025

Anmeldung unter: siehe oben

März 2025

Vorstand der JGG

会費納入について

会員の皆様におかれましては、すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して、年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際はご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方、常勤職をお持ちでない方、学生の方は、ご本人からのお申し出によって、年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上、事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は、自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2025 年度振替日は 7 月 1 日（火）ですので、すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また、振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局にご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 1 日（火）に振替ができなかった場合は、郵便振込をお願いしています。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には、「会費納入のお願い」と払込取扱票をお送りします。

以上、よろしくお願い申し上げます。ご不明の点、ご質問は事務局（TEL./FAX : 03-5950-1147, Mail フォーム : <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>）までお問い合わせください。

日本独文学会

一般社団法人日本独文学会会費規程

(目的)

第1条 この規程は、定款第7条の規定に基づき、入会金及び会費の納入に關し、必要な細則を定めるものとする。

(入会金)

第2条 会員は入会金として1,000円を納入しなければならない。

(入会金の納期)

第3条 入会金は、この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

(会費)

第4条 会員は、次の会費（年額）を納入しなければならない。

正会員 10,000円

賛助会員 30,000円（学術交流団体など非営利団体の場合10,000円）

(会費の納期)

第5条 会員は、当該事業年度開始の7月末日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

(会費の減免)

第6条 4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて8,000円とする。

2 4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は、6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。

3 4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。

4 会費の減免は申告が受理された年度から適用し、遡って適用されることはない。

5 常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

6 大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の身分に変更があった場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

(使用目的)

第8条 入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

- (1) 本会の運営
- (2) 本会の機関誌等の発行

(細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により別に定めることができる。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、総会の決議による。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

ドイツ語教育部会総会のお知らせ

日時：2025年5月24日（土）12時45分～13時15分（予定）

会場：未定（中央大学多摩キャンパス；決まり次第、メーリングリストでお知らせのうえ、教育部会ウェブサイトでも案内いたします）

議題

I 報告事項

- 1) 2024年度活動報告
- 2) その他

II 審議事項

- 1) 2024年度決算報告
- 2) 2025年度予算について
- 3) 会則の一部改定について
- 4) 監事団について
- 5) その他

III 会員からの意見開陳

第 51 回語学ゼミナー開催のご案内

2025 年 2 月

日本独文学会第 51 回語学ゼミナーを開催いたします。今回は 1980 年代に Charles J. Fillmore が提唱した「フレーム意味論 (Framesemantik)」を受けて 1990 年代に始まった「フレームネット (FrameNet) プロジェクト」、またこのプロジェクトと「構文文法 (Konstruktionsgrammatik)」に依拠して近年活発に進められている「構文データベース (Konstruktikon) プロジェクト」によるドイツ語記述をテーマとします。フレームネットプロジェクトと構文データベースプロジェクトは、現在日本やドイツを含む世界各国で展開されていますが、今回のゼミナーでは招待講師が主導するドイツ語のフレームネット・構文データベースプロジェクトが何を目指し、どのような応用の可能性があるかについて、活発な議論を行うことを予定しております。例年どおり参加者による研究発表も歓迎します。みなさまの積極的なご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

総合テーマ	Von der Konstruktionsgrammatik zu einem (FrameNet-) Konstruktikon
招待講師	Alexander Ziem 教授 (デュッセルドルフ大学) ※ ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。 https://www.germanistik.hhu.de/abteilungen/abteilung-i-germanistische-sprachwissenschaft/univ-prof-dr-alexander-ziem/lehrstuhlinhaber
講演テーマ	1) Zehn Schritte zur Entwicklung und Implementierung eines Konstruktikons 2) Konstruktionen und Frames: (sprachliche) Bedeutungen analysieren und dokumentieren 3) Das Konstruktikon des Deutschen als dynamisches Netzwerk: sprachdidaktische und computationelle Anwendungsperspektiven
期間	2025 年 8 月 19 日 (火) ~ 8 月 22 日 (金) の 4 日間
会場	kokoka 京都市国際交流会館 〒606-8536 京都市左京区栗田口鳥居町 2 番地の 1 https://www.kcif.or.jp/web/jp/building/

定 員 40 名

参 加 費 1 万円 (会員), 1 万 2 千円 (非会員)

※宿泊は各自で手配していただきます。申し込み後に近隣のホテルをご案内します。

※学生および専任職を持たない会員については、所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に、参加費補助 (5 千円) と宿泊費補助 (1 万円を予定) を行います。加えて、遠方からの参加の場合、旅費の補助も検討します。

※中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は、略歴および主要業績表を提出してください。参加費は会員と同様です。

申込方法

以下のフォーム (外部リンク : Google Form) にアクセスし、必要事項をご記入の上、参加申込を行ってください。

LS2025 Anmeldeformular:

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdzPbtCJ3TEYCMYBfU765HCMmp2ca4fBWQMQu9tuu9FtmQZpg/viewform?usp=sharing>



申込締切 2025 年 5 月 31 日 (土)

問合せ先 語学ゼミナール実行委員会 (linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com)

その他

- 参加申込みの承認は、日本独文学会理事会にて行われます。参加者正式決定の通知は 6 月下旬～7 月上旬を予定しています。
- 研究発表を希望される方は、ドイツ語 250 語程度のアブストラクトを添付してください。上述の参加者決定後、より詳細な発表要旨を提出していただき

ます。発表の採否は実行委員会にご一任願います。

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会
宮下博幸（委員長）

Das 51. Linguisten-Seminar der JGG

Kyoto, 19. Aug. – 22. Aug. 2025

Das 51. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Kyoto im folgenden Rahmen stattfinden. Über eine zahlreiche Teilnahme würden wir uns sehr freuen.

1. Rahmenthema: Von der Konstruktionsgrammatik zu einem (FrameNet-) Konstruktikon

2. Gastdozent:

Prof. Dr. Alexander Ziem (Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf)
<https://www.germanistik.hhu.de/abteilungen/abteilung-i-germanistische-sprachwissenschaft/univ-prof-dr-alexander-ziem/lehrstuhlinhaber>

3. Vortragsthemen

- 1) Zehn Schritte zur Entwicklung und Implementierung eines Konstruktikons
- 2) Konstruktionen und Frames: (sprachliche) Bedeutungen analysieren und dokumentieren
- 3) Das Konstruktikon des Deutschen als dynamisches Netzwerk: sprachdidaktische und computationelle Anwendungsperspektiven

4. Termin: Dienstag, 19. August bis Freitag, 22. August 2025

5. Ort: kokoka Kyoto International Community House

Torii-cho 2-1, Awataguchi, Sakyo-ku, 606-8536 Kyoto
<https://www.kcif.or.jp/web/jp/building/>

6. Max. Teilnehmerzahl: 40

7. Anmeldung:

Bewerbung per Google Form „LS2025 Anmeldeformular“:

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdzPbtCJ3TEYCMYBfU765HCMmp2ca4fBWQMQu9tuu9FtmQZpg/viewform?usp=sharing>



*Interessenten ohne JGG-Mitgliedschaft werden gebeten, neben der Anmeldung ihren akademischen Werdegang sowie die Liste ihrer wichtigsten Publikationen in PDF-Format nachzureichen. Bei Nicht-Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundschaftlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Nachbarländern ist zudem eine Empfehlung durch ein JGG-Mitglied in PDF-Format erforderlich. Bei Fragen wenden Sie sich an den Organisationsausschuss per unten stehende E-Mail-Adresse.

8. Teilnahmegebühr:*

10.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Ländern) bzw. 12.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.

*Wir bitten Sie, das Hotel selbst zu buchen. Informationen zu Hotels in der Umgebung werden wir Ihnen nach der Anmeldung zusenden. Für Studierende sowie Teilnehmende ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen, Übernachtungs- und Reisekostenzuschüsse möglich.

9. Anmeldeschluss: Samstag, 31. Mai 2025

Die Auswahl der Teilnehmenden bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 31. Mai 2025) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge

bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

Organisationsausschuss des 51. Linguisten-Seminars
Hiroyuki Miyashita (Leitung)
E-Mail: linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com

DAAD からのお知らせ

THEMA 1

German Research Fair—ドイツ研究フェア（4月 10 日（木）16:00～21:00、オンライン）

ドイツの大学・研究機関で研究したい方やドイツの大学の博士課程・ポスドク・奨学金について知りたい方を対象とした、DAAD 東京事務所・DWIH 東京によるオンラインイベント「German Research Fair—ドイツ研究フェア」が 4 月 10 日（木）日本時間 16:00～21:00 に開催されます。本イベントにはドイツの 20 の大学・研究機関・助成機関が出展し、参加者への情報提供・質疑応答を行います。イベント当日は各大学・研究機関・助成機関の情報のダウンロード、担当者とのチャットでのやり取り、オンラインセミナーへの参加が可能です。ドイツでの研究に関心のある方はぜひご参加ください。

詳細：<https://www.dwhi-tokyo.org/ja/event/grf2025/>

THEMA 2

欧州留学フェア（EHEF）2025（6月 14 日（土）東京、6月 15 日（日）大阪；両日 12:00～18:00）

日本の皆さんに欧州留学の魅力をより深く理解していただくことを目的としたイベント「欧州留学フェア（EHEF）」が、6 月 14 日（土）法政大学、6 月 15 日（日）関西大学にて開催されます。今年は 18 カ国・約 75 のヨーロッパの高等教育機関、ドイツからはカイザースラウテルン・ランダウ大学、シュトゥットガルト大学、テュービンゲン大学、ハイデルベルク大学、バイロイト大学、フライブルク大学、ブラウンシュヴァイク工科大学、ゲーテ・インスティトゥート、ドイツ学術交流会（DAAD）の 7 大学・2 機関が参加予定です（2025 年 2 月時点、変更の可能性あり）。ドイツの参加大学・機関のブースには日独通訳スタッフまたは日本人スタッフがいるため、日本語での相談も可能です。ぜひこの貴重な機会に気になる大学・機関のブースを訪れて、担当者に留学相談や質問をしてみてください。

詳細：<https://ehef-japan.org/>

THEMA 3

ドイツ留学・研究に関する YouTube ライブ

DAAD 東京事務所は月に一度、ドイツ留学・研究に関する様々なテーマで YouTube

ライブを開催しています（参加登録不要・視聴無料）。次回は4月15日（火）18時から「ドイツ留学とインターンシップ」、5月20日（火）18時から「ドイツの大学キャンパスツアー：イエーナ大学」というテーマで配信予定です。いずれの回も、現在ドイツに留学している日本人学生に体験談をお話いただき、視聴者は配信中に質問をすることができます。詳細はDAAD東京事務所のウェブサイトをご覧ください。

詳細：<https://www.daad.jp/ja/events/>

THEMA 4

ドイツ留学相談随時受付中！

DAAD東京事務所はドイツ留学に関する相談を随時受け付けています。メールでの相談のほか、Zoomによるオンラインでの相談も可能です。ドイツ留学相談をご希望の方は、お問い合わせフォームから具体的な質問内容をお送り下さい。オンライン相談をご希望の場合は「オンライン留学相談希望」と記載し、ご希望の日時（一人当たり約20分、事務所開室日14～17時まで）をあらかじめお知らせください。

お問い合わせフォーム：<http://www.daad.jp/ja/about-us/contact/>

Neuigkeiten vom DAAD

THEMA 1

German Research Fair - for ECRs from Japan (10. April, 16-21 Uhr JST, Online)

Die Online-Veranstaltung „German Research Fair - for ECRs from Japan“ der DAAD-Außenstelle Tokyo und des DWIH Tokyo richtet sich an alle, die in deutschen Hochschulen oder Forschungseinrichtungen forschen möchten oder sich über Promotionsprogramme, Postdoktorandenstellen und Stipendienmöglichkeiten informieren wollen. Die Veranstaltung findet am Donnerstag, dem 10. April, von 16:00 bis 21:00 Uhr JST statt. An der Veranstaltung nehmen 20 deutsche Hochschulen, Forschungseinrichtungen und Organisationen teil, die den Teilnehmenden Informationen bereitstellen und Fragen beantworten. Am Veranstaltungstag haben Sie die Möglichkeit, Informationsmaterialien der einzelnen Einrichtungen herunterzuladen, per Chat mit Ansprechpartner:innen zu kommunizieren und an Online-Seminaren teilzunehmen. Nutzen Sie diese Gelegenheit, wenn Sie an Forschung in Deutschland interessiert sind.

Weitere Informationen (auf Englisch): <https://www.dwh-tokyo.org/grf2025>

THEMA 2

European Higher Education Fair (EHEF) 2025 (14. Juni in Tokyo, 15. Juni in Osaka; jeweils 12–18 Uhr)

Die Veranstaltung „European Higher Education Fair (EHEF)“ hat zum Ziel, Interessierten aus Japan die Attraktivität eines Studiums in Europa näherzubringen. Sie findet am Samstag, dem 14. Juni, an der Hosei University in Tokyo und am Sonntag, dem 15. Juni, an der Kansai University in Osaka statt. In diesem Jahr werden etwa 75 Hochschulen und Institutionen aus 18 Ländern teilnehmen. Aus Deutschland werden voraussichtlich sieben Hochschulen und zwei Institutionen dabei sein, nämlich die Rheinland-Pfälzische Technische Universität Kaiserslautern-Landau (RPTU), die Technische Universität Braunschweig, die Universität Bayreuth, die Universität Freiburg, die Universität Heidelberg, die Universität Stuttgart, die Universität Tübingen, das Goethe-Institut und der DAAD (Stand: Februar 2025; Änderungen vorbehalten). An den Ständen der deutschen teilnehmenden Hochschulen und Einrichtungen stehen zweisprachige Dolmetschende (Japanisch/Deutsch) oder japanische Mitarbeiter:innen zur Verfügung, sodass Beratungen auch auf Japanisch möglich sein werden. Nutzen Sie diese wertvolle Gelegenheit, um die Stände zu besuchen, sich von den Ansprechpartner:innen über ein Studium in Deutschland

beraten zu lassen und Ihre Fragen zu stellen.

Weitere Informationen (auf Englisch): <https://ehef-japan.org/en/>

THEMA 3

YouTube-Live zu Studium und Forschung in Deutschland

Die DAAD-Außenstelle Tokyo veranstaltet einmal im Monat YouTube-Live-Events zu verschiedenen Themen rund um Studium und Forschung in Deutschland (keine Anmeldung erforderlich, kostenlose Teilnahme). Der nächste Livestream findet am Dienstag, dem 15. April, um 18:00 Uhr JST statt und widmet sich dem Thema „Studium und Praktika in Deutschland“, gefolgt von einem weiteren Livestream am Dienstag, dem 20. Mai, um 18:00 Uhr JST mit dem Thema „Campus-Tour in Deutschland: Friedrich-Schiller-Universität Jena“. In beiden Livestreams berichten japanische Studierende, die derzeit in Deutschland studieren, von ihren Erfahrungen. Während der Übertragung haben Sie die Möglichkeit, Fragen zu stellen. Weitere Details finden Sie auf der Website der DAAD-Außenstelle Tokyo.

Weitere Informationen (auf Japanisch): <https://www.daad.jp/ja/events/>

THEMA 4

Beratung zum Studium in Deutschland

Die DAAD-Außenstelle Tokyo steht jederzeit für Beratungen zum Studium in Deutschland zur Verfügung. Neben E-Mail-Beratung ist auch eine Online-Beratung über Zoom möglich. Wenn Sie eine Beratung zum Studium in Deutschland wünschen, senden Sie uns bitte Ihre konkreten Fragen über das Kontaktformular. Wenn Sie eine Online-Beratung in Anspruch nehmen möchten, geben Sie das bitte an und teilen Sie uns vorab Ihren Wunschtermin mit (ca. 20 Minuten pro Person, zwischen 14:00 - 17:00 Uhr an Tagen, an denen unser Büro geöffnet ist).

Kontaktformular (auf Japanisch): <http://www.daad.jp/ja/about-us/contact/>

ゲーテ・インスティトゥートからのお知らせ



1. 研修プログラムパンフレット

ゲーテ・インスティトゥートでは、ドイツ語教員の方、ドイツ語教員を目指す方向けのパンフレットを作成しました。

- 日本、ドイツ、オンラインでの研修プログラム
 - ドイツでの語学コースやセミナーを受講するための奨学金
 - ゲーテ・ドイツ語検定試験の試験官資格
 - ドイツ語授業のための無料教材
- 等の情報を提供しています。
ぜひご活用ください。

<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/unt.html>



プリント版をご希望の方は、下記までご連絡ください。郵送いたします。

ドイツ語教育推進担当 Tomoko.Maruyama@goethe.de

2. 2026年度ドイツでの研修プログラム参加の奨学金

9月以降、ホームページの募集要領をご確認の上、お申し込みください。

<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/unt/for/deu.html>

3. ゲーテ・ドイツ語検定試験 試験官

ゲーテ・インスティトゥート東京が実施するゲーテ・ドイツ語検定試験の試験官を募集しています。東京または関西（京都）での実施の際にお手伝いください。試験官認定資格をお持ちでない方で興味がおありの方は、お問い合わせください。

検定試験コーディネーター jan.hillesheim@goethe.de

4. シンポジウム

2025年6月15日（日）に独仏共催で、多言語教育の意義に関するシンポジウムを開催予定です。詳細は追ってお知らせします。

一般社団法人日本独文学会岩崎奨学生（出版助成）のお知らせ

2020 年度に岩崎奨学生は、若手研究者のための出版助成に改定されました。
2024 年度は、申請がありませんでした。

なお、岩崎奨学生（出版助成）の概要は、下記のとおりです。

【奨学生の趣旨】

日本独文学会は、故岩崎英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩崎奨学生」を創設し、若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学生を支給してきましたが、必要とされている援助を行うという観点から、この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学生制度へと改定することになりました。

【奨学生の概要】

1. 博士論文の出版に際して、テニュア職を持たない会員に対して、30万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学生の支給は年度総額の上限を設定する（2020 年度については 60 万円）。また、同一会員への支給は1回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い、日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学生は 2020 年 4 月より募集を開始する。
5. 奨学生の返済の義務はない。ただし、支給後に、申請対象の研究書の出版を中止した場合、受け取った奨学生を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが、本奨学生と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学生を受けようとする者は、決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は、外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合、奨学生を支給する。
9. 奨学生の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また、事情により、予告なしにこの事業を終了することもある。

第 22 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果 Bekanntgabe der Entscheidung zur Vergabe des 22. JGG-DAAD-Preises

第 22 回日本独文学会・DAAD 賞が下記のように決定しましたので、お知らせいたします。

日本語研究書部門 :

- ・宇和川 雄
『ベンヤミンの歴史哲学 — ミクロロギーと普遍史』(人文書院)

日本語論文部門 :

- ・小野寺 賢一

ヘルダーリンの詩作における「発信源(Adressant)」と作者との関係 — 未完の頌歌「詩人の勇気(Muth des Dichters)」の草稿群と「詩人の勇気(Dichtermuth)」ならびに「臆心(Blödigkeit)」について — (*Neue Beiträge zur Germanistik* Band 21/Heft 2 『ドイツ文学』第 166 号)

- ・山口 庸子

モダニズムの芸術人形劇における異文化受容 — クレイグ, トイバー=アルプ, テシュナー — (*Neue Beiträge zur Germanistik* Band 21/Heft 2 『ドイツ文学』第 166 号)

ドイツ語研究書部門 :

該当なし

ドイツ語論文部門 :

- ・Jun YAMAMOTO(山本潤)

Historizität der mittelhochdeutschen Heldendichtung. Eine Analyse aus der Perspektive des historiographischen Geschichtsverständnisses (*Neue Beiträge zur Germanistik* Band 21/ Heft1 『ドイツ文学』第 165 号)

- ・Thomas PEKAR

Läuterungs- und Wiedergutmachungsversuche. Hermann Kasacks Roman *Die Stadt hinter dem Strom* (1947) und die Shoah im historischen Kontext (*Neue Beiträge zur Germanistik* Band 21/Heft 1 『ドイツ文学』第 165 号)

次の方々に選考委員をお願いしました。 (敬称略)

日本語部門 委員長：大宮 勘一郎(東京大学)

委員：稻葉 瑛志(三重大学), 今井 敦(龍谷大学), 岡本 順治(学習院大学),
荻野 蔵平(熊本大学名誉教授), 宮戸 節太郎(國學院大學), 眞鍋 正紀(東海大学・DAAD 推薦), 室井 祐之(早稲田大学), 山口 裕之(東京外国語大学)

ドイツ語部門 委員長：藤井 明彦 (早稲田大学名誉教授)

委員：大蔵正彦(静岡大学), 大田 浩司 (上智大学), 香田芳樹 (元慶應義塾大学), 藤繩 康弘 (東京外国語大学), 柳橋 大輔 (早稲田大学・DAAD 推薦),
Kraus, Manuel (早稲田大学), Zemsauer, Christian (上智大学)

日本独文学会 2024 年秋季研究発表会報告

2024 年秋季研究発表会は、10 月 19 日および 20 日に熊本大学黒髪北地区にて対面で開催された。研究発表会の内訳はシンポジウム 4 本、口頭発表 22 本、ポスター発表 2 本、ブース発表 2 本であった。また、朝日出版社・郁文堂・三修社・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるブースが設けられた。1 日目のプログラム終了後の 18:15~20:15 には懇親会が開催された。

第 50 回語学ゼミナー報告

2024 年の語学ゼミナーは総合テーマに Sprachtypologie in der gebrauchsbasierter Linguistik を掲げ、イエーナ大学の Holger Diessel 教授をお招きし、2024 年 8 月 26 日（月）～8 月 29 日（木）の 4 日間の日程で行われた。今回も従来の合宿形式はとらず、日本大学理工学部駿河台校舎にて対面で開催した。ゼミナーの参加者および期間中のプログラムは以下のとおりである：

招待講師： Prof. Dr. Holger Diessel (Friedrich-Schiller-Universität Jena)

一般参加者（姓のアルファベット順）：

Ban Jungseok (Sogang University), *大喜 祐太 (近畿大学), 出島恒太郎 (学習院大学), 藤井俊吾 (東京医科歯科大学), 藤繩康弘 (東京外国語大学), 箸本里菜 (学習院大学), 池田裕行 (東京外国語大学), 生駒美喜 (早稲田大学), *井坂ゆかり (大阪大学), 伊藤克将 (大阪公立大学), 伊藤港 (学習院大学), 覚知頌春 (キール大学), 小林大志 (東北大学), 小松未奈美 (広島大学), 小西優葉 (上智大学), Patrick Kühnel (Peking Universität, Internationale Hochschule SDI München), Lee Yongjun (Seoul National University), **宮下博幸 (関西学院大学), 森芳樹 (東京大学), 成田節 (中央大学), 仁科陽江 (広島大学), *信國萌 (大阪公立大学), *小川敦 (法政大学), 岡本順治 (学習院大学), 岡野伸哉 (国立国語研究所), 大薗正彦 (静岡大学), Gabriela Schmidt (日本大学), 下村恭太 (京都大学), *高橋美穂 (三重大学), ***時田伊津子 (日本大学), 筒井友弥 (京都外国語大学), 渡辺学 (明治大学), 横田詩織 (慶應義塾大学)

***担当理事, **実行委員長, *実行委員

プログラム：

8 月 26 日	14:00-16:30	開会, Diessel 教授講演 I
8 月 27 日	9:30-12:00	Diessel 教授講演 II
	13:30-16:45	一般研究発表 I
8 月 28 日	9:30-12:00	Diessel 教授講演 III
	13:30-16:20	一般研究発表 II
	18:00-20:00	懇親会
8 月 29 日	9:30-11:30	ワークショップ
	13:30-15:00	Diessel 教授の講演に関するディスカッション

参加者 33 名のうち、10 名が大学院生であった。ゼミナール開催にあたっては、今回も DAAD ならびにドイツ語学文学振興会に多大なご支援を賜った。委員一同、この場をお借りし感謝申し上げたい。

続いて語学ゼミナールでの招待講師の講演内容について報告する。

ゼミナール初日の午後、Diessel 教授の第 1 講演「Deixis und Demonstrativa」が行われた。講演タイトルの直示表現等について論じるに先だち、用法基盤言語学では言語がどのように捉えられているのか導入の説明がなされた。用法基盤言語学では、言語は動的なシステムで、言語使用の下で創発的なカテゴリーや構文が発展し、常に変化するものと考えられている。研究には、機能認知言語学や言語心理学などのアプローチが取り入れられており、言語が自己完結的な演繹的システムであることを前提とする生成文法とは方向性が異なるという。続いて、第 1 講演の中心的話題である、直示表現と指示代名詞の機能およびその特徴についてお話しeidaita。発話状況を参照する直示表現は、言語獲得のプロセスにおいては話し手と聞き手間の共同注意の理解と同時期に現れ、幼少期に最も多く使用される語のひとつである。また、指差しを伴うなどしばしばマルチモーダルに用いられ、他の言語表現とは異なる特殊な位置づけにあるといえる。また、指示代名詞の起源は内容語に遡るのが難しく、最も根本的な言語表現のひとつと考えられるようである。直示表現は、社会的な相互作用と文法構造の創発の礎となっており、通時的に文法構造の発展において中心的な役割を果たしているという。

二日目午前には、第 2 講演「Wortstellung」が行われた。語順は、Greenberg 以来、言語類型論において繰り返し取り上げられてきたテーマである。世界各地の言語を観察すると、その言語の話される地域とはかかわりなく、語順に一定の相関関係がみられる。例えば、基本語順が VO の言語ならば、助動詞は動詞に先立つ傾向がみられ、逆に、OV 語順の言語ならば、助動詞は動詞に後続する傾向がみられる。また、側置詞に関しては、VO 語順の言語では前置詞、OV 語順の言語では後置詞という傾向がある。講演では、こうした語順相関の説明として、(i)生成文法のパラメータ理論、(ii)言語処理理論、(iii)心理言語学および歴史言語学の知見に基づく用法基盤的説明の 3 つが提示された。(iii)では、句構造を内容語同士が結びついた語彙的タイプと、機能語を含む文法的タイプに分類した上で、前者の語順をアナロジーに基づくもの、後者の語順を文法化の結果生じるものと分析する。例えば、後者に該当する助動詞と動詞の語順について、助動詞はその起源を他動詞に遡ることができ、文法化を経たのちも、他動詞の語順を受け継いでいると考えられる。つまり、他動詞が目的語に先立つ VO 語順ならば助動詞が動詞に先立ち、逆の OV 語順であれば、助動詞が動詞に後続する。講演の最後には、語順相関は、相互に結び付いたネットワークであるという捉え方が示された。す

なわち、語順相関は、主要部先導型・終端型の2つのグローバルなタイプとしてではなく、アナロジーや文法化といった様々な要因によって生まれた語順が、ローカルに相互に結び付いて形作られたものと捉えられるのである。

三日目午前の第3講演「Komplexe Sätze」では、Diessel教授の複文構造に関する研究プロジェクトから、多くの言語類型論的なデータが提示された。複文に関する言語類型論的研究では、従属節の機能、形態、従属接続詞の形式と機能等が分析の中心となる。従属節の種類とその語順には相関関係が見られる。例えば、VOが基本語順の言語では、補文は動詞に後続するが、OVが基本語順の言語では、補文が動詞に先行する言語が多い。ただし、OV語順の言語には、補文が動詞に後続する言語も一定数認められる。次に、関係節は、VOが基本語順の言語では、名詞に後続する傾向が強くみられる。一方、OVが基本語順の言語では、関係節が名詞に先行する言語と後続する言語がおよそ同数程度認められるという。続いて、副詞節については、条件や時を表す副詞節は主節に先行し、理由や目的を表す節は主節に後続する傾向がみられる。主節と従属節の位置関係については、データの90%はHawkins(2004)のテーゼに基づいて説明可能だという。そのテーゼとは、従属節のマーカーである接続詞と主節との距離が近い方が認知処理が容易になるため、主節に先行する従属節では接続詞が従属節末、すなわち主節の直前にあり、主節に後続する従属節では接続詞が従属節頭、すなわち主節の直後にあるというものである。これに加えて、複文の分析にあたっては文法化の観点も重要だという。文法化も考慮すると、Hawkinsのテーゼで例外となる事例についても説明が可能となるからである。

以上の3つの講演を通じ、Diessel教授には用法基盤言語学の立場から、言語類型論の様々なトピックについてご教授いただいた。ご講演を通じ、参加者はドイツ語が世界中の言語の中でどう位置づけられるか理解を深めるとともに、最新の研究成果に触れることができた。講演中、および講演後には、活発な質疑応答も行われた。

ゼミナールの2~3日目には、計13本にのぼる参加者による発表が行われた。発表後、Diessel教授からコメントや助言がなされ、他の参加者から多くのコメントや質問が寄せられた。ゼミナール3日目の午前には、Diessel教授の3つの講演の内容を振り返るワークショップが日本語で行われ、参加者の間で改めて講演内容に関する疑問・質問がまとめられた。午後、Diessel教授を交え再び活発なディスカッションが行われ、語学ゼミナールを締めくくる非常に有意義な総括の場となった。

招待講師のDiessel教授をはじめ、DAAD、参加者各位、実行委員各位、担当理事、ならびに日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての

学会員のみなさまに、改めて御礼申し上げます。

(文責：井坂ゆかり)

日本独文学会研究叢書新刊一覧

156号：「中世文学における婦人の名譽」

[Die Ehre der Frau in der mittelalterlichen Literatur]

編集者：嶋崎 啓

執筆者：嶋崎 啓，松原 文，伊藤 亮平，渡邊 徳明

発行日：2024年10月19日

157号：「群集を再訪する、ただしパトスなしに」

[Neubegegnung mit der Masse in der deutschsprachigen Literatur der Zwischenkriegszeit]

編集者：海老根 剛

執筆者：海老根 剛，糸田 文，古矢 晋一，早川 文人

発行日：2024年10月19日

2024 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会、東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は、現在 Zoom による全面オンライン開催となり、全国およびドイツからの参加も可能となっている。受講者は、ワークショップへの参加に加え、各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また、参加者の省察や議論を増やしたカリキュラムを導入し、専用のプラットフォームである Moodle 上では、受講者同士、また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され、ドイツ語教育について共に考え、学び合うコミュニティが形成される場となっている。

2. 2023 年秋開講のコースについて

2023 年秋開講のコースは、前期が 2023 年 10 月から 2024 年 7 月までの 8 回のワークショップで 7 モジュール、後期が 2024 年 10 月から 2025 年 9 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen 4* (以下 DLL) の課題、計 11 のモジュールからなる。後期コースには 14 名の受講者が参加し、2025 年 3 月の時点で第 9 回ワークショップまで終了した。

後期コースのワークショップ開催日、モジュールのテーマ並びに担当講師は以下のとおりである。

後期コース(2024 年 10 月—2025 年 9 月)

ワーク ショッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10 月 12 日	外部講師による講演	M8: ランデスケンデと異文化理解 野村幸宏、草本晶
2	11 月 2 日	DLL 4 導入ワークショップ Goethe-Institut	
3	12 月 21 日	M8 のレポートの評価と 討論	M9: 様々なメディアと ICT の導入

			岩居弘樹, 境一三
4	1月 25 日	M9 のレポートの評価と 討論	DLL 4, PEP の準備 Goethe-Institut
5	4月 26 日	DLL 4, PEP の準備	M10: テストと評価 梶浦直子, 吉村創
6	6月 21 日	Praxiserkundungsprojekt (PEP) プレゼンテーション Goethe-Institut	
7	7月 19 日	M10 のレポートの評価と 討論	M11: 学習者の動機づけと学 習ストラテジー 藤原三枝子, 梶浦直子
8	9月 15 日	M11 のレポートの評価と 討論	講座の総括

2023/2024 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ報告

2023/2024 年度ドイツ語論文執筆ワークショップを 2024 年 9 月 13 日（金）と 14 日（土）の 2 日間の日程で開催した。今回のワークショップは 2022 年度のワークショップに引き続き、立教大学にて対面で行われた。併せて 13 日（土）には懇親会も行われ、参加者間での交流も盛んであった。講師は井出万秀氏（立教大学）、レオ・シュレンドルフ氏（東京都立大学）が、実行委員は岡野史氏（東京大学）、出島恒太郎氏（学習院大学）、横田詩織氏（慶應義塾大学）が務めた。また、立教大学学部 4 年生の海老澤美恵氏、齋藤実桜氏、桐山夏美氏の 3 名にはワークショップの運営において多大な貢献をいただいた。今回のワークショップには学部生、大学院生ならびに若手・中堅の研究者を中心に、両日合わせて 11 名が参加した。ワークショップは以下のスケジュールで行った（敬称略）。

9 月 13 日（金）

13:00-13:30	開会の挨拶・参加者自己紹介
13:30-14:45	ドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント (井出、シュレンドルフ)
14:45-15:00	休憩
15:00-16:15	ドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント (井出、シュレンドルフ)
16:15-16:30	休憩
16:30-18:00	アカデミック・ライティング講座（シュレンドルフ）
18:30-20:00	懇親会

9 月 14 日（土）

11:00-12:00	講演と質疑応答（井出）
12:00-13:30	昼食休憩
13:30-15:20	ドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント (井出、シュレンドルフ)
15:20-15:30	休憩
15:30-16:00	総括としてのディスカッション・質疑応答
16:00-16:10	閉会の挨拶

13日は、ワークショップの開催にあたり井出氏から開会の言葉をいただいた後、実行委員含め参加者全員が簡単な自己紹介を行った。本ワークショップは、ドイツ語での論文執筆という同じ目的を持つ若手の研究者が互いに交流できる場を提供することも目的の一つとしている。ワークショップ一日目の後に懇親会を行う予定ではあったが、必ずしも全員が参加できるわけではなかったため、ワークショップの冒頭にてまず自己紹介を行うことで発言がしやすい環境を作ることとした。メインのプログラムとしては、まず井出氏が論文というテクストに要求される項目についてスライドを交えつつ説明した。その中で研究発表におけるレジュメや口頭で喋るテクスト、論文においてはそれぞれ相応しい表現や論理の運び方が異なっているため、文を構成する際どのような点に注意が必要なのかを例と共に見た。次いでレオ・シュレンドルフ氏によるアカデミック・ライティング講座として配布された資料を基に、どのようにテクストを改善できるかという点を相互に話し合った。

14日には参加者から提出されたテクストをより良いものへするための改善案とその解説が為され、最後に参加者からドイツ語での論文執筆に関する質問・議論が行われた。

今回のワークショップも前回のワークショップに引き続き、講師と参加者が相互にやり取りを行うゼミナール形式となっていた。レオ・シュレンドルフ氏のアカデミック・ライティング講座では参加者同士が小グループに分かれて改善案を話し合う機会もあり、交流の端緒となったように思われる。

以上のように、ワークショップを終了した。実行委員会を代表して謝辞を述べたい。井出万秀氏は、今回もワークショップの計画を立案・組織し、適宜実行委員会に指示をくださった。レオ・シュレンドルフ氏は、豊富なドイツ語の教授経験に基づき、論文執筆をまだ経験していない参加者にも明快な指南をくださった。以上の講師の先生方、積極的に参加してくださった皆様、そして今回実行委員を務めることを快諾し、ワークショップ当日は司会も担当してくださった岡野史氏、出島恒太郎氏に、厚く御礼申し上げる。

(文責：横田詩織)

「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」について

日本独文学会では「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」を、2024年5月から7月にかけて実施いたしました。調査は、ドイツ語授業を行っている全国の教育機関を対象としたアンケート（基本情報調査と詳細情報調査）、ドイツ語教員を対象としたアンケート、ドイツ語学習者を対象としたアンケートから構成されています。

調査結果につきましては、2025年5月に日本語版、ドイツ語版の報告書を日本独文学会ウェブサイト上で公開するとともに、2025年の春季研究発表会において発表いたします。

調査にご協力いただいた皆様には、この場を借りて深く御礼申し上げます。

（調査担当理事・委員長：太田達也）

支部報告

北海道支部

○2024年12月7日（土）に総会・第92回研究発表会が北海道大学大学院メディア・観光学院研究棟にて開催され、以下の研究発表が行われた。

1. 林 弘晃（小樽商科大学）：
ヘルマン・ブロッホの歴史理論について
2. 北原 寛子（北海学園大学）：
シュレーゲル兄弟の文学史のディルタイへの影響

参加人数：26名

会員数：50名

東北支部

○2024年11月30日（土）に東北学院大学五橋キャンパスにて第66回研究発表会および総会が行われ、活発な議論がなされた。発表内容は下記の通り。

- ・嶋崎順子「ジャン・パウルとメルヒエン—グリム童話「星の銀貨」(KHM153)を中心」
- ・松崎裕人「ジャン・アメリーと啓蒙—レッシング賞受賞演説をきっかけに」
- ・竹内拓史「ヴィルヘルム・フルトヴェングラーの二つの「質問票」の成立過程とその誤記載について」
- ・Reik Jagno「Georg Würfel und die deutsche Sprache an der Dai-ni Kōtō Gakkō in Sendai」

○機関誌『東北ドイツ文学研究』第65号（2024年）を2024年11月30日に刊行した。内容は下記の通り。

- ・Qi Liang「Eine korpusbasierte kontrastive Studie zu deiktischen Bewegungsverben im Deutschen und im Japanischen」
- ・佐藤研一「悲劇『エミーリア・ガロッティ』—宫廷作法と激情」
- ・斎藤成夫「シラー『ドン・カルロス』—絢爛たる革命宫廷劇」

○2024年10月3日現在の会員数：80人

○次回研究発表会：2025年11月29日（土）秋田地区開催（秋田大学）予定（詳細調整中）

北陸支部

○2024年度研究発表会および総会を開催した。

日時：2024年11月16日（土）午後1時

場所：富山大学人文学部（富山市五福3190）

研究発表会

1. 岸本明子：J. S. Bach のコラール・カンタータにおける詩人について——ゲオルク・ノイマルクを中心に
2. 和田真歩：「輸入された反ユダヤ主義（Importierter Antisemitismus）という言葉の出現とその背景
3. 宮内伸子：オノマトペのドイツ語訳について——『和独大辞典』の例文を手がかりに——
4. 成田 節：ドイツ語受動文の意味と働き——小説の原文と翻訳の比較を通して考える
5. 阿部美規：文法記述の新潮流？——Duden 文法第10版（2022年）と第9版（2016年）の比較
6. 葛西敬之：ヨーナス・リュッシャー『野蛮人の春』におけるグローバル化時代の危機の諸相

総会

（1）支部活動総括

前回の総会（2022年11月19日）以降、以下の活動を行った。

2023年3月25日 『ドイツ語文化圏研究』第19号刊行。

日本語論文3本・日本語研究ノート1本

2023年6月 当番地区が石川・福井から富山に移動。

2023年11月11日 研究発表会開催（金沢大学サテライト・プラザ）

研究発表5本

2024年2月20日 『ドイツ語文化圏研究』第20号刊行。

日本語論文2本・日本語研究ノート1本・ドイツ語研究ノート1本

2024年11月16日 研究発表会開催（富山大学人文学部）

研究発表 6 本

2024 年 11 月 16 日時点の会員数は 37 名（新潟地区 7 名、富山地区 14 名、石川・福井地区 11 名、その他 5 名）で、2 年前の総会時から 5 名の減（退会者 7 名、入会者 2 名）。

（2）審議事項および意見交換

1. 総会を伴わない研究発表会の担当地区について

総会を伴わない研究発表会を 2025 年度以降非当番地区が担当するという提案が、審議の結果、承認された。

2. 次期当番地区について

次期当番地区は金沢・福井に決定した。

3. その他

①地区幹事の選出について

会員減少に伴い地区幹事の確保が難しい状況が生じたため、「日本独文学会北陸支部規約」第 9 条を改定し、地区幹事を選出する条件を若干緩和する提案がなされ、次回総会で継続審議することとした。

②支部機関誌の発行について

会員減少に伴う収入減のため現状のままの支部機関誌の発行が困難になりつつあるとの問題提起がなされた。意見交換の後、発行部数の見直し、より安価な印刷業社への依頼、Web 媒体での発行を検討することとなった。

③次期役員の選出

次期役員は以下の通り選出・承認された。（敬称略）

支部長： 志村 恵（公立小松大学）

常任幹事： 佐藤 文彦（金沢大学）

支部選出理事： 早川 文人（金沢大学）

新潟地区幹事： 桑原 聰（新潟大学名誉教授）

富山地区幹事： 金城 朱美（富山県立大学）

福井地区幹事： 磯崎康太郎（福井大学）

監事： 阿部 美規（富山大学）

なお、新潟地区幹事への桑原聰会員就任については、担当可能な新潟大学常勤会員が不在となったことによる臨時の措置であり、業務面で配慮を行うことが確認された。

関東支部

○2024年11月24日（日）に、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、第15回関東支部研究発表会を開催した。4件の研究発表がなされ、活発な議論が交わされた。発表者と表題は次の通り。

清水 恒志：E. T. A. ホフマン『黄金の壺』についての一考察 wunderbar と wunderlich の交替を手掛かりに

中村 祐子：ギュンダーローデの短剣 『どこにも居場所はない』から『カッサン ドラ』へ

保阪 靖人：ドイツ語における疑問詞の長距離移動について：移動の障壁（島）について

林 明子・西出 佳詩子：分析的な読みからテクスト産出者の意図を探るまで
専門分野につながる読みのストラテジー習得を目指して

東海支部

○支部会員数 105名（2025年1月11日現在）

○2024年10月、機関誌『ドイツ文学研究』第56号が刊行された。

- ・論文

1. 稲葉瑛志：シュペングラーの「歴史形態学」—学問と芸術のはざまの思考—
2. 大塚 直：告白が虚偽を暴露する—ホルヴァート『神なき青春』とヘルタ・パウリ『その後の青春』について—
3. 鈴木康志：『ワイマルのロッテ』における体験話法—二重視点性の読み取りのむずかしさについて

- ・研究エッセイ

土屋正彦：移動するアイデンティティ—ドイツ語圏「越境文学」について—

- ・ドイツ語教育の現場から

太田達也・鈴木友美加：民主的シティズンシップの育成とタスク・行動中心のドイツ語授業

- ・Neues aus dem deutschsprachigen Raum

Christoph REICHENBÄCER: Die neue Ost-West-Debatte. Zu einer grundlegenden Diskussion um Herkunft und Einfluss im Deutschland der 2020er.

- ・追悼文

小栗友一：早崎守俊先生を偲んで

○合評会

日時：2024年12月14日（土），10時より

場所：愛知大学名古屋キャンパス 講義棟7階L701教室

上記の機関誌に掲載された論文の合評会が開催された。

○総会・冬季研究発表会及び講演会

日時：2024年12月14日（土），13時30分より

場所：愛知大学名古屋キャンパス 講義棟7階L706教室

・研究発表

1. Oliver MAYER: 25 Jahre Deutschunterricht in Aichi.
 2. 網谷優司：ニーチェ哲学における「自由精神」の動向
- ・講演

東京外国語大学名誉教授 成田節氏：視点と言語表現—ドイツ語と日本語の対照

○懇親会

研究発表会・講演会終了後、愛知大学名古屋キャンパス内生協食堂にて懇親会がおこなわれた。

○役員選挙

2024年12月14日の幹事会で選挙管理委員長立会いのもと開票作業がおこなわれ、新役員が選出され、2025年1月11日の幹事会で以下のように役割分担が決まった。（下線付きは今回選出、下線なしは留任）

支部長：糸井川修

支部選出理事：大塚直

庶務：稻葉瑛志、安川晴基

会計：白川茜、前田織絵

編集：麻生陽子、山本恵

○機関誌『ドイツ文学研究』第57号を2025年10月に刊行予定。

○夏季研究発表会

夏季研究発表会を2025年7月12日（土）に開催予定、会場については愛知学院大学名城公園キャンパスで開催を予定。

京都支部

○2024年度春季研究発表会

日時：2024年7月13日（土）14:00～17:00

会場：龍谷大学和顔館 B109 教室

参加者数：41名

研究発表：

1. 「オトフリートの福音書」における受動文
— 格変化語尾を伴った過去分詞の使用条件に対する再検討 —
畠中 啓以力 氏（京都大学大学院生）
2. ヴェルナー・ブロイニヒ『ルンメルプラツツ』における鉱山の表象
中村 峻太郎 氏（京都大学大学院生）
3. 「芸術が奉仕する未来の共同体」を語る作曲家レーヴァーキューン
—— トーマス・マン『ファウストウス博士』試論
別府 陽子 氏（京都産業大学非常勤）

○2024年度秋季研究発表会

日時：2024年12月14日（土）

会場：京都府立大学 稲盛記念会館1階106教室

参加者数：27名

研究発表（発表タイトル、発表順は仮のもの）：

1. ヴィラモヴィアン語の再帰代名詞の使用に関する一考察
下村 恭太 氏（京都大学大学院生）
2. 細やかものの連合としての注意力
— ベンヤミンのヴァレリー論より —
木戸 吉則 氏（京都大学大学院生）
3. ナチス時代のスターリンによる肅清
— ソ連登山界の成り立ちと悲劇
武田 良材 氏（京都大学非常勤）

○2024年度総会

日時：2024年12月14日（土）

会場：京都府立大学 稲盛記念会館1階106教室

参加者数：22名（途中より23名）

主な議事

- ・2023年度決算、2024年度予算の承認
- ・会則の変更（新入会、再入会についての項目を追加）
- ・ハラスメント防止宣言

支部長・支部選出理事・支部委員選挙

選挙結果は以下の通りである。（任期はいずれも2025年4月1日開始）

支部長 細見和之（京都大学）

支部選出理事 今井敦（龍谷大学）

支部委員 金子哲太（京都外国語大学）、児玉麻美（奈良女子大学）、須藤秀平（京都大学）、筒井友弥（京都外国語大学）、林英哉（関西大学）、藤原美沙（京都女子大学）、吉村淳一（滋賀県立大学）

○特別講演会（共催）

日時：2024年9月1日（日）14:00～16:30

会場：オンライン

※ 当初は8月31日（土）に京都大学で開催予定だったが、台風接近のため日程を変更した上で、オンラインにて開催した。

参加人数：74名

講師：Holger Diessel 教授（イエナ大学）

題目：The Grammar Network. Syntactic categories in usage-based construction grammar.

※ 講演会は京都ドイツ語学研究会が主催。本会および京都大学大学院人間・環境学研究科が共催。

○フランツ・カフカ没後100年記念企画（後援）

日時：2024年11月22日（金）19:30-21:00

会場：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

参加人数：80人

※ 主催はゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

○学会誌『Germanistik Kyoto』について

2000年より年1回刊行。2024年9月発行の第25号掲載論文は以下の通り。

■ 理想の劇場の創出を目指して

— グラッペの演劇理論における悲喜劇的要素について —

児玉 麻美

■ デーブリーン『ベルリン・アレクサンダー広場』における都市と人間の再生
吉田 千裕

■ 第二次世界大戦後のトーマス・マンの中国に関する記述
高辻 正久

○「読み切りブックレット・ドイツの文化」について

2016年より出版助成を開始。2022年5月に第3巻を刊行。2024年度の執筆申込みなし。

○2024年度支部役員

支部長：青地 伯水（京都府立大学）

支部選出理事：河崎 靖（京都大学）

編集委員：藤原 美沙（京都女子大学），吉田 孝夫（奈良女子大学）

涉外・広報委員：稲葉 瑛志（三重大学），須藤 秀平（京都大学）

会計委員：熊谷 哲哉（近畿大学）

庶務委員：児玉 麻美（奈良女子大学），田原 憲和（立命館大学）

○会員数：140名（2025年1月30日現在）

阪神支部

○阪神ドイツ文学会第245回研究発表会

日時：2024年12月1日（日）14時～17時30分

場所：立命館大学いばらきキャンパス

シンポジウム：ユニオン教会と神戸

一史料から紐解くドイツ系コミュニティの歴史

司会：大津留厚（神戸大学名誉教授）

第1発表：衣笠太朗（神戸大学講師）

神戸ユニオン教会における史料整理事業とドイツ語史料の紹介

第2発表：井上舞（神戸大学特命講師）

神戸ユニオン教会史料の整理作業について

第3発表：林祐一郎（京都大学大学院博士後期課程）

あるドイツ人宣教師の夢の跡

—普及福音新教伝道会宣教師エミール・シラーの日本滞在と神道研究を巡って

第4発表：中村綾乃（大阪大学准教授）

第二次世界大戦と神戸のドイツ人コミュニティ

—戦争とナチズム、迫害の縮図

第5発表：アンドレアス・ルスター・ホルツ（関西学院大学教授）

EKKの議事録から明らかになる対立

参加者数：44名

○講演会

日時：2025年3月15日（土）16:30～18:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス

講演者：Kathrin Siebold教授

（フィリップ大学マールブルク、ドイツ語教育研究ゼミナール招待講師）

講演題目：Erwerbsförderlicher Sprachgebrauch im DaF-Unterricht

参加者数：9名

○会員数：184名（2025年3月12日現在）

中国四国支部

2024年11月9日(土)，広島大学東千田キャンパスにおいて、第73回研究発表会を実施した。

これに先立つ総会では、1. 次期支部幹事・役員、2. 決算および予算、3. 非常勤職の役員・幹事への旅費支給、4. 機関誌の電子ジャーナル化が審議され承認された。これに併せて、2025年度の総会・研究発表会は、高知大において対面にて実施、2026年度は日本独文学会秋学会が、岡山大学で行なわれる所以、総会のみ行なうことが確認された。

2025年度支部役員

支部長 原 千史

支部選出理事 由比俊行

地区幹事 【岡山・鳥取】由比俊行、【広島・島根】今道晴彦、【四国】土屋京子
会計 吉満たか子

編集委員会 委員長：山崎康孝、副委員長：小崎 肇、今道晴彦

庶務 中野英莉子、杉林周陽

○研究発表会は、計 4 件の発表があった。

- ・野上 俊彦：反感・期待・失望・同情 — ナチ時代のドイツ(人)へのエルンスト・ユンガーのまなざし
- ・野村 優子：ドイツ装飾美術運動におけるハリー・グラーフ・ケスラー
- ・堀田 明：ローベルト・ムージルにおける Essayismus 概念のコンテクスト
- ・土屋 京子：Blüthen aus dem Treibhause der Lyrik. Eine Mustersammlung. (1855) に収録された Südwestjapanisch – Lied von der Insel Xikoko をめぐって

○『ドイツ文学論集』57 号は、以下の内容で 12 月に発行。

- ・藤繩康弘：ドイツ語にアスペクトは存在するか？ — 時制の範疇化という観点からの一考察
- ・野上俊彦：ナショナリスト期エルンスト・ユンガーのドイツ国民像
- ・Olaf SCHIEDGES : Zur Rolle des digitalen Paratextes am Beispiel des Romans "Unterleuten" (2016) von Juli Zeh

○現時点で、正会員 69 名、賛助会員 5 社。

西日本支部

○2024 年 9 月 20 日 (金) ~23 日 (月) インターウニ西日本を福岡県大野城市「まなびのやど福岡」にて実施。参加学生 25 名、教員 14 名。

○2024 年 10 月 4 日 (金) Dieter Borchmeyer 教授講演会 «Von Werther zum Zauberberg. Jubiläum zweier Jahrhundertromane»を九州大学伊都キャンパスにて開催。対面参加 13 名、オンライン参加 4 名。

○2024 年 10 月 19 日 (土)・20 日 (日) 日本独文学会秋季研究発表会および、西日本支部第 76 回総会を熊本地区にて開催。全国学会参加者 175 名。

○2024 年 11 月 18 日 支部機関誌『西日本ドイツ文学』第 36 号発行。掲載論文・書評等は以下のとおり。

論文

木田 綾子：ヴィーラント『ドン・シルヴィオの冒険』における
「ヒヤシンス物語」のノヴェレ的要素

池田 奈央：音楽を「描く」言葉

——E. T. A. ホフマンの音楽記述における視覚的表現——

杵渕 博樹：観察者の冒険の始まり

——ニコラス・ボルン『二日目』——

研究ノート

栗山 次郎：ハンナ・アーレント『活動的生』における

ニーチェの「すべての価値の価値転換」論への批判

日高 雅彦：トーマス・マンの演劇観——『演劇試論』を中心に——

書評

大野寿子 監修 ささきあり, 長井理佳, 早野美智代, 飯野由希代 文:

『いっしょに楽しむ おはなしのえほん』シリーズ3冊

田口 武史

ゲオルク・ヴェールト 著 高木文夫 訳:『ヴェールト詩集』

保坂 直之

報告

日本独文学会西日本支部 2023 年度活動報告

竹岡 健一

ドゥルス・グリューンバイン氏講演会報告

益 敏郎

エーファ・ゴイレン教授講演会報告

木田 綾子

第 32 回インターワニ西日本報告

村上 浩明

○第 7 回九州ドイツ語スピーチコンテストは来年度へ延期。

○Niels Werber 教授講演会『Ist das noch Literatur? Die Midcult-Debatte』

2025 年 3 月 25 日 (火), 福岡大学にて開催予定。

○役員改選

支部長 堀雅志 (新任)

支部選出理事 田口武史 (新任)

編集委員長 村上浩明 (新任)

○会員数 (2024 年 10 月 1 日現在) : 116 名。

ドイツ語教育部会報告

1. 総会

2024 年日本独文学会秋季研究発表会（会場：熊本大学）に合わせ、2024 年 10 月 19 日（土）に総会を開催した（日本独文学会ドイツ語教育部会会則第 16 条第 2 項の定めによる）。

1.1. 議題

I 報告事項

1. 2025-2027 年度幹事選挙結果について
2. 財政健全化ワーキンググループからの答申
3. その他

II 審議事項

1. 2025-2027 年度幹事委嘱について
2. 会費の改定について
3. その他

III 会員からの意見開陳

1.2. 2025-2027 年度幹事委嘱について

日本独文学会ドイツ語教育部会幹事選出細則に基づき行われた選挙の結果、2025-2027 年度幹事として以下（敬称略）の 12 名が委嘱された。

池谷尚美、伊藤直子、牛山さおり、草本晶、白井宏美、田原憲和、中川慎二、野村幸宏、林良子、吉村創、藁谷郁美、Olga Czyzak

1.3. 会費改定について

財政健全化について部会長から諮詢を受けていたワーキンググループ（清野智昭幹事・白井宏美幹事・田中雅敏幹事）から、教育部会の財政逼迫に鑑みてあらゆる試算を行なった結果、当面の活動を維持していくには正会員・準会員の年会費を現行の 3,000 円から 5,000 円に値上げすることが妥当との答申がなされた。ワーキンググループの答申を受け、幹事会から会費改定について提案がなされ、全会一致で承認された。なお、機関誌 29 号より印刷会社を変更し一定のコスト削減を実現している。今後、選挙における e 投票の導入を検討するなど、さらに支出を抑える改善に努める。

（改定前）年会費 正会員・準会員 3,000 円 賛助会員 5,000 円

（2025 年 4 月より）年会費 正会員・準会員・賛助会員 5,000 円

2. 分掌ごとの活動報告

(1) 部会長

2024年8月25~28日に中国・青島で開催されたアジア・ゲルマニスト会議に招待され、全体でのパネルディスカッション、DaF関連セクションで個別発表と合同発表を行った。

(2) 企画

2024年度日本独文学会秋季研究発表大会で1日目は「だべり場 DaF」、2日目はTill Weber 氏（琉球大学）によるワークショップ「Active Learning - Handlungsorientierung - Unterricht lernendenzentriert gestalten」を開催。

(3) 高等学校・PASCH

- 1) 2024年7月11日に、「PASCH 模擬裁判ヘンゼルとグレーテル」が行われた。生徒たちで物語を再編し、裁判官・検事・弁護士・被告人などを演じた。伊藤直子幹事が参加した。
- 2) 2024年7月13~24日まで、国際ドイツ語オリンピック2024がドイツ・ゲッティンゲンで開催され、日本から高校生2名が参加した。能登慶和幹事（高独研会長）が引率した。
- 3) 2024年7月29日~8月2日にかけて、獨協大学にて第28回「高校生のためのドイツ語入門講座」が開催され、能登慶和幹事（高独研会長）も講師として参加了。
- 4) 2024年10月6日に第26回「全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」が獨協大学にて開催され、池谷尚美幹事（高独研副会長）が審査員の一人を務めた。
- 5) 2025年2月19日に高独研臨時総会がオンラインで行われ、会長を引き続き能登幹事が、副会長を池谷幹事が務めることとなった。

(4) 大学入試問題検討委員会

独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき、「令和7年度大学入学共通テスト（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を草本晶部会長の名義で作成し、2025年2月25日付けで提出した。評価書の作成は、草本晶部会長の他、伊藤直子幹事、池谷尚美幹事、田中雅敏幹事、木戸紗織委員、佐藤友紀子委員、芹澤円委員が担当した。

(5) 広報委員会

月2回（第1・3金曜日）のMitteilungenを発行。

(6) ドイツ語教員養成・研修講座

「ドイツ語教員養成・研修講座」への教育部会からの拠出金を、それまでの 10 万円から 1 万円に減額することについて、同講座実行委員会から承認を得た。

(7) IDV

ドイツ語教育部会の会員数が 500 人を切ったため、IDV 加盟費のカテゴリー（会員数 301～500 人）が下がり、年額 500 ユーロとなった（以前は 750 ユーロ）。ただし、これに加えて富裕国寄附 250 ユーロを拠出している。

会員数（2025 年 3 月 13 日現在）は、正会員 388 名、準会員 72 名、賛助会員 9 団体の計 469 名・団体である。

（文責 田中雅敏）

ドイツ語学文学振興会より

第 65 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 65 回ドイツ語学文学振興会賞は、Info-Blatt 編集時において審査者会議で審議中です。審査結果が判明し次第、ドイツ語学文学振興会ウェブサイト (<http://www.dokken.or.jp/foundation/>) でお知らせする予定です。なお、授賞式は春季研究発表会初日（5 月 24 日）11 時 40 分（予定）、学会会場にて開催いたします。多くの学会員の皆さんのが参列し、受章を祝っていただきたく存じます。

なお、本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっています、授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては、日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり、お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら、是非ご推挙ください。

（文責：条川麻里生）

大学院 Germanistik 関係博士論文題目

2024 年 9 月 2 日から 2025 年 3 月 23 日までに本学会 HP の「博士学位取得情報登録フォーム」 (<https://www.jgg.jp/mailform/dsrtm/>) に届け出があった情報を、執筆者ご本人の申告に基づき掲載します。

なお、申告済みの情報は下記 URL でご覧いただけます（検索欄への入力無しに「送信する」をクリックすると、全件表示されます）。

https://www.jgg.jp/mailform/prom/prom_src.php

※大学名および氏名は 50 音順です。

※掲載対象は本学会員の情報のみです。

※カッコ内は取得年を表します。

東京外国語大学

井坂ゆかり：現代ドイツ語の目的語としての相關詞 es の出現・非出現と動詞の選択制限

東京外国語大学大学院総合国際学研究科

佐藤宙洋：現代ドイツ語における接頭辞動詞と不変化詞動詞の競合
(2023)

名古屋大学大学院人文学研究科

梶浦直子：日本の大学におけるドイツ語学習者の自己評価に影響を及ぼす複合要因—コミュニケーション型授業における学習者の情意をめぐる実証的研究
(2024)

あとがき

「ニュースレター」2025年春号（Info-Blatt 第12号）をお届けします。各種のご報告ならびにご案内をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

学会情報の多くがHPで公開されておりますが、このニュースレターにしかない情報もありますので、ご一読、そしてご活用いただけましたら幸いです。今後もどうぞよろしくお願ひします。

庶務担当理事 小林和貴子

編集

一般社団法人 日本独文学会庶務委員会

小黒 康正（委員長）

太田 達也（編集担当） 小野間 亮子（編集担当） 川島 建太郎（編集担当）

小林 和貴子（編集担当） 櫻井 麻美（編集担当） 清野 智昭（編集担当）

編集・発行

一般社団法人 日本独文学会

170-0005 東京都豊島区南大塚

3-34-6 南大塚エースビル603

電話03-5950-1147

振替00160-9-135018

E-Mail（メールフォーム）：

<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

ニュースレター2025年春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2025

2025年4月7日発行